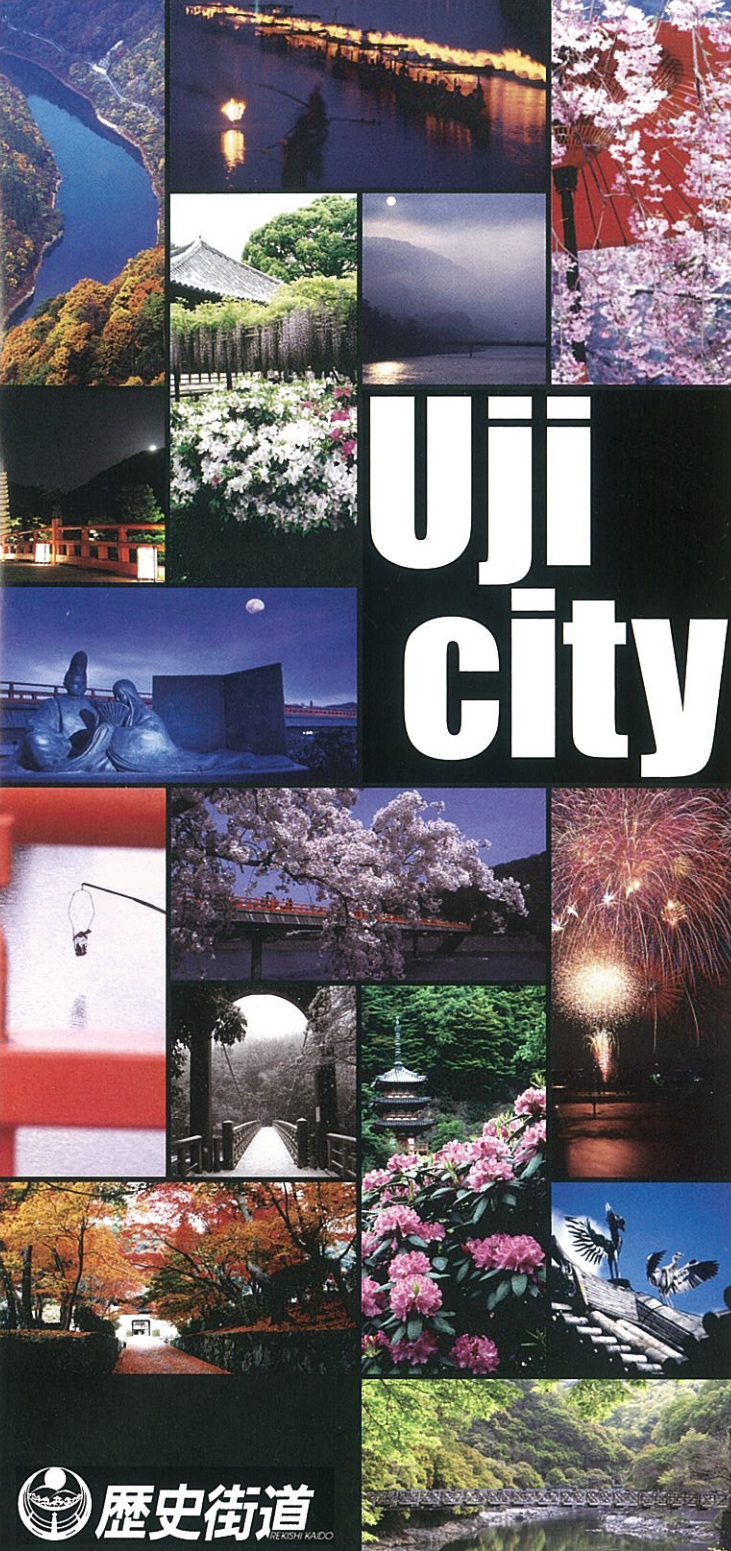




宇治物語

—源氏物語のまち・宇治—

Uji city



旅物語

宇治川に彩られた悠久の ときは重なり、ゆめは深まる。

千年の時を超えて滔々と流れる宇治川を中心とした美しい景観と、世界遺産の「宇治上神社」「平等院」をはじめとする豊かな歴史・文化資源に恵まれた宇治。

宇治は、ある時は戦乱の舞台として、また別の時代には文化の中心として、常に日本の歴史とともに歩んできました。

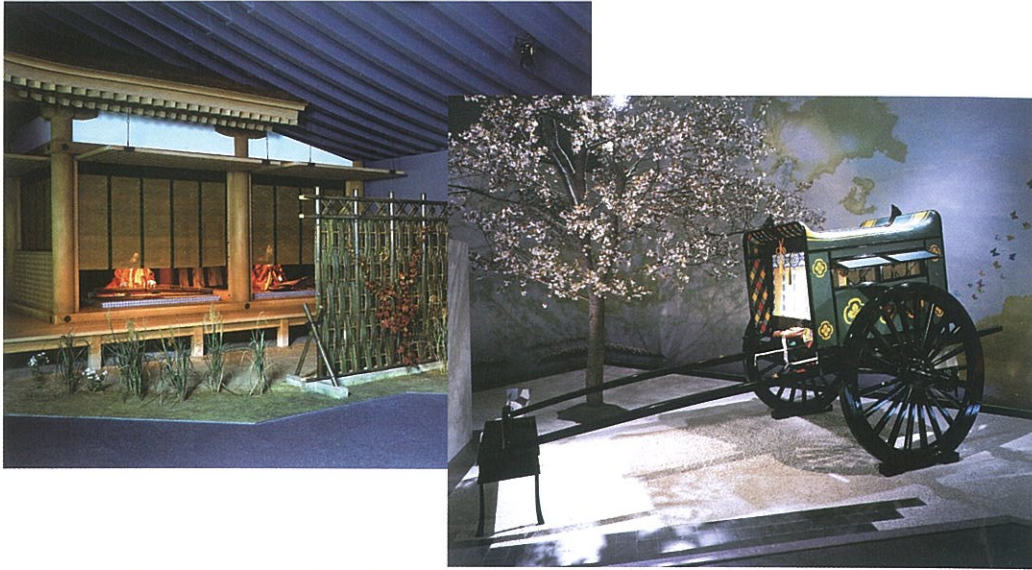
市内に点在する古跡は、それぞれの時代の息吹を今に伝え、まるでタイムスリップのように人を過去に誘い、歴史と文化を体験させてくれます。

宇治は、古跡や社寺を巡るだけでも十分に楽しんでいただけますが、源氏物語などの文学や宇治茶といったテーマ別の観光、太陽が丘や天ヶ瀬森林公園でのスポーツ・レクリエーションなど、あなたのお好みに合わせた楽しみ方ができるまちです。

●「観光ボランティアガイド」
そんな宇治をより楽しんでいただくために「観光ボランティアガイド」が皆様をお待ちしています。どうぞ、お気軽にご利用ください。※詳しくは20ページをご覧ください。



源氏繪巻帖(宇治市源氏物語ミュージアム蔵)

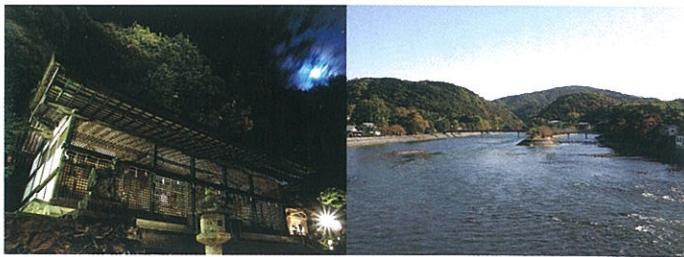


CONTENTS ~目次~

宇治旅物語 宇治の歴史と文化・世界遺産・宇治の歴史	1 宇治市地図 宇治市周辺地域・宇治市街周辺地域・宇治橋周辺地域	13
源氏物語 源氏物語と宇治・宇治十帖のあらすじ・源氏物語ミュージアム 宇治十帖モニュメント・紫式部の像 紫式部文学賞・紫式部市民文化賞	3 花ごよみ 宇治の特産品・花ごよみ	19
宇治紀行 平等院・宇治上神社・興聖寺・黄檗山萬福寺・三室戸寺 末多武利神社・宇治神社・市営茶室「対鳳庵」・さわらびの道 恵心院・県神社・地藏院・白山神社と金色院・炭山陶器の里 宇治市観光センター・橋姫神社・宝蔵院・橋寺(放生院常光寺) あじろぎの道・十三重石塔・かげろうの道・宇治川先陣の碑 宇治橋・与謝野晶子歌碑・下居神社・朝日焼・上林記念館 宇治茶・万葉歌碑・許波多神社・三休庵宇治茶資料室・宇治稜 駒蹄影園碑・山本宣治の墓・巖島神社・安養寺・蔵林寺	5 宇治散策 観光モデルコース・観光ボランティアガイドのご案内	20
SPORTS RECREATION & EVENT アクトパル宇治・太陽が丘(府立山城総合運動公園) 天ヶ瀬森林公園・宇治市植物公園・天ヶ瀬ダム・天ヶ瀬吊橋 大吉山・宇治公園中の島・もみじ谷・宇治川花火大会・鞆飼 茶まつり・宇治川さくらまつり・県まつり・宇治十帖スタンプラリー 宇治田楽まつり	11 宇治歳時記 主な年中行事スケジュール・国宝及び重要文化財一覧	21
	23 旅物語人物紹介 菟道稚郎子・道登・橋姫・藤原道長・藤原頼通・源隆国 藤原寛子・紫式部・恵心僧都・源頼政・明恵・叡尊 槇島昭光・上林政重・永井尚政・隠元隆奇・山本宣治 歴史街道	23



宇治物語



宇治の歴史と文化

古くから宇治は、政治的にも重要な位置にありました。

大和政権がようやく基礎を固めつつあった頃、応神天皇の後継を巡って、兄の仁徳天皇に皇位を譲るため、自ら命を絶つたと伝えられる菟道稚郎子(うじのわきいらつこ)の離宮が、現在の宇治上神社・宇治神社の辺りにあったと言われています。

また、宇治橋架橋後は、奈良、京都、滋賀を結ぶ水陸交通の要衝として、歴史の中でより重要な役割を果たすようになりました。

平安時代には、栄華を極めた藤原氏の別業の地として華麗な王朝文化を咲かせ、極楽浄土をこの世に具現しようとした平等院「鳳凰堂」は、その象徴として今もなお往時の姿をとどめています。

宇治はまた、万葉集や平家物語など数多くの文学に登場します。

世界に誇る「源氏物語」宇治十帖の舞台であることはあまりにも有名です。

貴族の社会が武家社会へ移る時期には、「宇治川の先陣争い」で知られる、源(木曾)義仲軍と源義経軍による戦いがありました。

その後も戦国時代にかけて、宇治川の周辺では幾多の戦乱が繰り返され、日本で初めて自治を実現したと言われる「山城国一揆」や室町幕府の終焉につながる槇島城の戦の舞台にもなりました。

鎌倉時代には、桐尾高山寺の明恵が宇治へ茶を伝えました。

信長や秀吉の庇護のもと、宇治はその産地として名声をあげ、政治の中心が江戸に移ってからも、宇治茶は高級茶として珍重され、今に至っています。

江戸時代の初期には、名刹興聖寺や中国風の萬福寺が建てられ、宇治は「茶道」や「禅」に象徴される日本文化の発展に大きな役割を果たします。

世界遺産

世界遺産とは、ユネスコの「世界遺産条約」で登録された文化遺産と自然遺産のことです。

条約は、人類全体の利益のために保護すべき遺産を登録して国際的にその価値を認め、それらを保護するため、国境や民族を越えた協力体制の確立をめざしています。

宇治市にある「宇治上神社」と「平等院」も、1994年12月に、京都市・大津市の15社寺・城とともに、「古都京都の文化財」として登録されました。

●他の15社寺・城
賀茂別雷神社(上賀茂神社)、賀茂御祖神社(下鴨神社)、教王護国寺(東寺)、清水寺、延暦寺、醍醐寺、仁和寺、高山寺、西芳寺(苔寺)、天竜寺、鹿苑寺(金閣寺)、慈照寺(銀閣寺)、竜安寺、本願寺(西本願寺)、二条城

宇治の文化的景観

文化的景観は、文化財保護法において、地域における人々の生活の営みと風土が生み出した景観地で、国民の生活・生業の理解のために欠く事のできないものと定められており、その中でも特に重要なものが重要文化的景観に選定されます。

「宇治の文化的景観」は、宇治川に代表される自然景観を骨格としながら、重層的に発展した市街地とその周辺に点在する茶園によって構成される茶業に関する独特の文化的景観であるとして、平成22年2月に国の重要文化的景観に選定されました。

宇治の歴史

5世紀前半 菟道稚郎子、宇治に菟道離宮を造営する。／宇治神社、宇治上神社

5世紀後半 二子山古墳造築される。／二子山古墳

6世紀初頃 二子塚古墳造築される。／二子塚古墳

645年 大化の改新

646年 元興寺の僧道登が宇治橋を架橋する。／宇治橋、橋寺

694年 藤原京遷都

奈良時代

710年 平城京遷都

740年 恭仁京遷都

744年 難波宮遷都

8世紀中頃 万葉集の編纂／万葉歌碑

784年 長岡京遷都

平安時代

794年 平安京遷都

935年～ 平将門の乱

941年 宇治民部卿藤原忠文が平将門の乱鎮圧の征東大将軍になる。／末多武神社

10世紀末 「往生要集」の著者恵心僧都源信が恵心院を再興したと伝えられる。／恵心院

11世紀初頃 紫式部が源氏物語を執筆する。／宇治十帖古跡、与謝野晶子歌碑

1052年 藤原頼通が別業を平等院に改め、県神社を総鎮守とする。／平等院、県神社

1053年 平等院阿弥陀堂(鳳凰堂)が完成する。

1102年 藤原頼通の娘四条宮寛子が金色院の落慶法要を行う。／金色院跡

12世紀中頃 観音信仰が盛んになる。

三室戸寺は西国三十三所巡礼の十番札所として栄える。／三室戸寺

1184年 源(木曾)義仲軍と源義経軍が宇治川で合戦し、義仲軍が敗れる。この時、

佐々木高綱と梶原景季の先陣争いが行われる。／宇治川先陣の碑

柴西が宋から茶種を持ち帰る。

鎌倉時代

1192年 鎌倉幕府の成立

13世紀前半 桐尾高山寺の明恵が宇治に茶を伝播する。／駒蹄影園碑

1286年 西大寺の僧叡尊が宇治橋を改修、網代を禁止。放生会を行う。／橋寺、十三重石塔

室町時代

1336年 室町幕府の成立

14世紀前半 この頃、宇治茶が高級茶としてもはやされるようになる。

1485年 山城国一揆

1573年 室町幕府の滅亡。足利義昭が槇島城で織田信長に降伏する。／槇島城跡

安土・桃山時代

16世紀後半 伏見城が完成。太閤堤が造られ、宇治川の流路が変わる。

この頃宇治茶が、秀吉をはじめとする武将たちに好まれる。／上林記念館

1600年 関ヶ原の戦

江戸時代

1603年 江戸幕府の成立

1633年 幕府によってお茶壺道中が確立する。／上林記念館

1648年 淀城主永井尚政が興聖寺を再興する。／興聖寺

1661年 隠元が黄檗山萬福寺を開山する。／黄檗山萬福寺

1678年 鉄眼が一切経6956巻を後水尾天皇へ献進する。／宝蔵院

近代

1868年 明治政府の成立

1929年 山本宣治が右翼に刺殺される。／山本宣治の墓

1941年 巨標池干拓事業が竣工する。

1951年 宇治市制施行される。

1957年 平等院鳳凰堂の大修理が終了する。／平等院

市営茶室「対鳳庵」が開席される。／市営茶室「対鳳庵」

1964年 天ヶ瀬ダムが完成する。／天ヶ瀬ダム

1993年 市営茶室「対鳳庵」が建て替えられる。

1994年 宇治上神社、平等院が世界遺産に登録される。／宇治上神社、平等院

1996年 宇治橋が架け替えられる。／宇治橋

宇治市植物公園開園。

1998年 宇治市源氏物語ミュージアム開館。

1999年 宇治市総合野外活動センター(アクトパル宇治)開館。

2001年 平等院ミュージアム鳳翔館開館。／平等院



源

氏物語

長大口マンのむすび、 虚実交々の世界に酔う。

源氏物語と宇治

藤原道長の娘彰子に女房として仕えていた紫式部が、世界に誇る長編小説「源氏物語」を書いたのは、平安時代の半ばの1000年頃であったと言われています。全編54帖のうち44帖までは、光源氏を主人公に、華やかな宮廷での恋愛模様とその光源氏に徐々にのびよる人生の陰を描いたものです。それに対して、最後の十帖は光源氏の子薫君(かおるのきみ)と孫の匂宮(におうのみや)の二人の男性と、大君(おおいきみ)、中君(なかのきみ)、浮舟(うきふね)の三人の姫君が織りなす、しっとりとした悲恋の物語です。その主要な舞台が宇治の地に設定されていることから「宇治十帖」と呼ばれていますが、「橋姫」ではじまり「夢浮橋」で終わっていることにもみられるように、紫式部にとっては源氏物語の終章を書くうえで、川霧にけむる宇治川がなくてはならない舞台装置でした。千年の時の流れを超えて、往時を偲ばせる宇治川の周辺には、いつのころからか好事家たちによって物語ゆかりの古跡がたてられ、訪れる人を遠く王朝文学の世界へと誘ってくれます。

宇治十帖のあらすじ

③ 四十五帖・橋姫(はしひめ)(E-4) 自分の出生に不安を覚える薫君は、光源氏の異母弟で仏道に帰依する八宮の宇治の山荘に足繁く通うようになります。八宮が不在の折に、二人の姫君の合奏を垣間見た薫君は、姉大君に心ひかれ、二人は文を交わす間柄になりました。八宮の山荘の女房から、自分が光源氏の本当の子ではないと知らされた薫君は、驚きうちひしがれてしまいます。ある時薫君は宇治での話を匂宮に聞かせ、姫君へのあこがれをいだけてしまうのでした。

④ 四十六帖・椎本(しいがもと)(E-5) 匂宮は初瀬詣の帰りに宇治で京より

迎えにきた薫君とともに宴をはり、管弦を楽しみます。そして、京へ帰った匂宮は八宮からの文をきっかけに大君の妹中君と文を取り交わすようになります。一方、薫君はますます大君に心をひかれていきます。やがて、八宮は薫君に姫たちの行く末を頼みながら、山寺で寂しくその生涯を閉じます。薫君は、なにかと姫たちの暮らし向きに心を配り、匂宮からも度々お見舞いの文が届けられていました。

④ 四十七帖・総角(あげまき)(E-6)

八宮の一周忌の日に、薫君は大君に想いを訴えますが、独り身を通すつもりの大君は、妹の中君との結婚を勧めます。想いを遂げられない薫君は、匂宮と中君が結ばれることで大君の心が得られるものと考え、策をめぐらせて二人を結ばせます。しかし、匂宮の訪れが遠のき、結婚の噂が流れてきたことから、責任を感じた大君は悲嘆のあまり病の床に伏してしまいます。見舞いにきた薫君の献身的な看護に大君ははじめて心を開きますが、薫君に抱かれて死んでしまいます。

④ 四十八帖・早蕨(さわらび)(E-5)

父について姉も失った中君は、寂しい日々を送ります。薫君は、宇治を訪れ、大君を失った悲しみを中君に打ち明けますが、大君の亡き面影を中君に認め、複雑な思いになります。中君は匂宮の二条院に迎えられ幸せな日々を送りますが、薫君がたびたび顔を見せるようになり、匂宮は嫉妬を感じるようになります。また、薫君は夕霧左大臣の娘大君との縁談を勧められますが、大君の死によって世をはかなんだ薫君はこれを断ります。

④ 四十九帖・宿木(やどりぎ)(F-5)

薫君は、帝から娘二宮との結婚を望まれ、気が進まないままに承諾しま

す。一方匂宮は六君と結婚することになります。薫君は中君に心ひかれ思慕の情を示しますが、匂宮の子を宿していた中君は、思い余って薫君に、大君に生き写しの異母妹浮舟の存在を告げます。薫君は二宮との婚儀を済ませますが、翌年宇治を訪ねた折に浮舟の姿を垣間見て、大君に生き写しの姿に強く心をひかれます。

④ 五十帖・東屋(あづまや)(E-5)

浮舟は、八宮に仕えていた中将君と、八宮の間にできた姫で、母は薫君が浮舟の世話をしたいという意向を聞いていました。しかし、身分が違い過ぎるため、左近少将を婿に決めていますが、これが破談になり浮舟は中君のもとに身を寄せます。そして、そこで偶然出会った匂宮に言い寄られ、驚いた母は浮舟を三条の東屋に移します。浮舟の消息を聞いた薫君は、浮舟を引き取る決心をし、浮舟を抱いて宇治に向かいますが、浮舟を愛しく思いながらも大君の面影がよみがえり、思わず涙するのです。

④ 五十一帖・浮舟(うきふね)(C-7)

匂宮は、浮舟のことが忘れられずその行方を捜しますが、宇治で薫君にかくまわれていることをつきとめ、闇に乗じて薫君を装い浮舟と強引に契りを結びます。最初は驚いた浮舟ですが、次第に匂宮の情熱に引き込まれていきます。一方、薫君はこのことを知りますが、浮舟を見捨てることなく、厳重な警備をして匂宮が近付かなくしてしまいます。穏やかで誠実な薫君と情熱的な匂宮の間で悩み苦しむ浮舟は、ついに死を決意して山荘を出ます。

④ 五十二帖・蜻蛉(かげろう)(D-6)

浮舟の姿が見えなくなって、山荘では慌て戸惑いますが、消息がわからないことから、死んだものと判断して、形ばかりの葬儀を済ませます。匂宮は悲嘆の余り病床に伏してしまいます。薫君は、都で華やかな日々を送りながらも、亡くなった大君、匂宮に渡してしまった中君、行方不明に消えてしまった浮舟と、八宮ゆ

かりの姫君たちのことを思い、物悲しい思いに沈んでしまいます。

④ 五十三帖・手習(てならい)(D-5)

死ぬつもりで宇治の川べりを徘徊して倒れていた浮舟は、横川の僧都に助けられ、妹尼の手厚い看護を受けて回復しますが、心ならずも生き長らえたことを悲しみ、泣き暮らしていました。そして、妹尼の亡き娘の婿に求婚されたことから、剃髪して尼になり、静かに暮らします。こうした事情は明石中宮の耳に入りますが、浮舟のことが忘れられず、悲しい思いで沈んでいる薫君の様子を見て、このことを薫君に知らせます。

④ 五十四帖・夢浮橋

〈ゆめのうきはし〉(E-5)

横川の僧都に会って、浮舟が生きていることを確認した薫君は、浮舟の弟小君に、還俗するように勧めた横川の僧都の文とともに自分の想いを書いた文を持たせて、小野の里に遣わせます。浮舟の心は思い乱れますが、人違いだといって小君に会おうとはしません。帰ってきた小君の様子からことを察した薫君は、文を出さねばとよかったと気落ちし、自分がかつてそうしたように、だれかが浮舟をかかまっているのではないかと思い悩むのでした。

源氏物語ミュージアム(E-5)

源氏物語ミュージアムは、観光客や市民に楽しみながら平安文化を理解してもらおうというもので、特に全国の源氏ファンにとっては見逃せない施設です。館内では「宇治十帖」の世界を分かりやすく紹介するほか、源氏物語に関する文献、史料、小説などのライブラリー機能を持ち、コンピュータによる蔵書検索もできます。

■0774(39)9300

■開館時間

9:00~17:00(入館は16:30まで)

■休館日

月曜日(祝日の場合は翌日)

年末、年始

■観覧料

大人500円 小・中学生250円

■団体割引30人以上

大人400円 小・中学生200円

■駐車場

バス2,000円 普通車(30分)100円

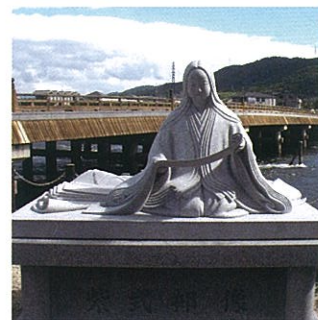
宇治十帖モニュメント(E-5)

市内に点在する源氏物語「宇治十帖」の古跡全体を象徴するモニュメントで、ヒロイン「浮舟」と「匂宮」が小舟で宇治川に漕ぎ出す有名な場面をモチーフとしています。宇治十帖のストーリーや登場人物に想いを寄せながらの記念撮影や散策途中の休憩に格好のポイントです。



紫式部の像(E-5)

「源氏物語」の作者である紫式部の石像が、宇治橋西詰の「夢浮橋ひろば」にあります。宇治橋を背景に「夢浮橋」の古跡と並んで建つ紫式部像は、「源氏物語のまち・宇治」の旅の記念撮影や散策途中の休憩、待ち合わせに最適の場所です。



紫式部文学賞・紫式部市民文化賞

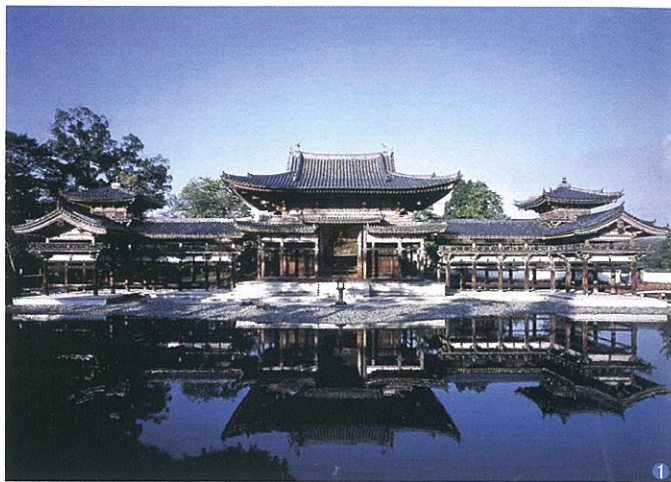
宇治市では、全国の女流作家を対象にした「紫式部文学賞」と市民を対象にした「紫式部市民文化賞」を設け、毎年秋に贈呈式を中心とした記念イベント「源氏ろまん」を開催しています。

●問い合わせ先/宇治市文化自治振興課 ■0774(22)3141



宇治紀行

美しく温かな余韻にたたずみ、自然が織りなす風光をあますところなく堪能。



① 平等院〈世界遺産〉(F-4)

平安時代の後期、1052年に宇治關白藤原頼通(よりみち)が、父道長の別荘を寺院に改めたものです。

「鳳凰堂(ほうおうどう)」は、その翌年に阿弥陀堂として建てられ、仏師定朝(じょうちょう)の作になる阿弥陀如来坐像が安置されている中堂と、左右の翼廊、背面の尾廊で成り立っています。

大屋根には鳳凰が飾られ、内部は絢爛な宝相華文様や極彩色の扉絵で装飾されています。二重の天蓋や雲中供養菩薩像も必見です。

「鳳凰堂」の前には池を配した庭園(史跡・名勝)がありますが、創建当初は宇治川や、対岸の山並みを取り入れて、西方極楽浄土を現したものとわれ、各地の寺院造営に影響を与えました。2001年3月に平等院ミュージアム鳳翔館がオープンしました。

■0774(21)2861

■拝観時間

入園 8:30~17:30
(17:15受付終了)
鳳翔館 9:00~17:00
(16:45受付終了)

■拝観料(入園+鳳翔館)

大人600円(500円)
中・高生400円(300円)
小学生300円(200円)

※()内は25名以上の団体料金

■鳳凰堂

拝観時間 9:30~16:10
(20分毎に1回50名の人数制限)
拝観志納金 別途300円

■駐車場 付近に民営駐車場有り



② 宇治上(うじかみ)神社〈世界遺産〉(E-5)

明治時代までは、隣接の宇治神社と二社一体で「離宮上社」と呼ばれていました。祭神は、応神天皇とその皇子菟道稚郎子(うじのわきいらつこ)及び兄の仁徳天皇とされています。

然が織りなす風光をあますところなく堪能。

境内正面の拝殿は鎌倉初頭のもので、寝殿造りの様式を伝えています。特に縫破風(すがるはふ)といわれる手法を用いた屋根の美しさは格別です。

本殿は、平安時代後期に建てられた現存するわが国最古の神社建築です。三棟の内殿を一行に並べて、共通の覆い屋で覆った特殊な形式の建物で、左右の社殿にある墓股(かえるまた)も建築年代を示すものとして重要です。境内にはその他、鎌倉時代に建てられた春日神社などの摂社や、宇治七名水のひとつ「桐原水」があります。

■0774(21)4634

■拝観時間 9:00~16:30



④ 興聖寺(こうしょうじ)(E-6)

曹洞宗の名刹で、春秋に美しい「琴坂」とともに人気の観光ポイントです。開祖道元は、最初の禅苑を京都の深草に建てましたが戦乱で廃絶、1648年に淀城主永井尚政によって宇治の地に再興されました。茶人でもあった尚政は、山水を取り入れて現在のような枯淡閑寂な境内をつくりましたが、往時には少なくとも三つの茶

亭があったと伝えられています。

また、平安時代中期の木造聖観音立像は、かつて源氏物語「宇治十帖」の古跡「手習の杜」に祀られていたことから「手習観音」の名で親しまれています。

■0774(21)2040

■拝観時間 9:00~17:00

■拝観料 庭園無料

建物内部は志納金(一口300円)が必要



④ 黄檗山萬福寺(A-5)

中国の僧隠元(いんげん)が1661年に開山した禅宗黄檗宗の本山。広大な境内では、今も雲水達が厳しい戒律のもと、日夜修行に励んでいます。東西に並立した伽藍配置は明末・清初の中国禅寺の特徴を持ち、異国情緒の漂うお寺です。布袋和尚像、十八羅漢像、観音像などの仏像は、写実的で迫真性に富んだ面相を特徴とする中国の仏師范道生(はんだうせい)の作品として有名です。また、当寺の名物、中国風精進料理の普茶料理は、見た目の華やかさとともに、ヘルシーな料理として人気を呼んでいます。

■0774(32)3900

■拝観時間 9:00~16:30

■拝観料 大人500円(450円)
高校生・大学生500円(300円)
中学生300円(250円)
小人(小学生のみ)300円(200円)

※()内は30名以上の団体料金

■駐車場 バス2,000円・普通車500円



⑤ 三室戸寺(みむろとじ)(C-7)

約1200年前に創建されたといわれる本山修験宗の別格本山。平安時代から広まった観音信仰の西国三十三ヶ所巡礼の十番札所として現在も多くの人々が訪れています。所蔵の仏画や仏像には藤原時代のものが多く、霊宝殿には、わが国で最も古い清凉寺式釈迦像として有名な釈迦如来立像などがあります。花の寺としても有名で、境内の鐘樓脇には源氏物語「宇治十帖」浮舟の古跡があります。

■0774(21)2067

■拝観時間

11月1日~3月31日 8:30~16:00
4月1日~10月31日 8:30~16:30
・ご朱印

11月1日~3月31日 15:30まで
4月1日~10月31日 16:00まで
(受付はそれぞれ30分前終了)

■拝観料 大人500円
小・中学生300円

■霊宝殿拝観時間 毎月17日のみ
公開 9:30~15:00

■拝観料 大人300円
小・中学生200円

■駐車場 バス2,000円・普通車500円

⑥末多武利(またふり)神社(E-5)

宇治民部卿、藤原忠文ゆかりの社。忠文は征東大將軍として平将門の乱の平定に向かいましたが、到着前に将門は討たれ、事件は解決していました。そのため、恩賞の対象から外された忠文は、そのことを深く恨んで祟ったといわれ、この神社はその怨靈を鎮魂する祠といわれています。



⑦宇治神社(E-5)

古くは離宮八幡宮(桐原日柝宮・きりはらひげたのみや)と呼ばれました。祭神の菟道稚郎子(うじのわきいらつこ)は日本書紀によれば、兄の大鷦鷯(おおさざき)皇子(のちの仁徳天皇)との皇位をめぐる葛藤から宇治川に入水したという悲運の皇太子です。本殿は鎌倉時代のもの。他に木造狛犬や白色厨面など貴重な文化財が伝わっています。

■0774(21)3041

■拝観時間 特になし

■駐車場

マイクロバス1,400円・普通車700円



⑧市営茶室「対鳳庵(たいほうあん)」(F-5)

宇治茶の振興と茶道の普及を目的に建てられた本格的な茶室で、平等院の鳳凰堂に相對していることから、「対鳳庵」と名付けられました。本場の宇治茶に季節のお菓子を添えてお点前をしています。初めてでもお気軽に。

■問い合わせ先/宇治市観光センター

■0774(23)3334

■開席期間

1月10日～12月20日(期間中無休)

■開席時間 10:00～16:00

■利用料金 一客500円

■駐車場 付近に民営駐車場有り

⑨さわらびの道(E-5)

宇治川の東岸から末多武利神社、宇治上神社を経て源氏物語ミュージアムに至る石畳の散策道。道沿いに源氏物語宇治十帖の早藪古跡があることから、このルートを「さわらびの道」と呼ぶようになりました。



⑩恵心院(えしんいん)(E-5)

春や秋の季節には境内に植えられた数多くの花々が心を和ませてくれる「花の寺」として知られています。当寺のはじまりは、古刹龍泉寺と伝えられていますが、やがて「往生要集」の著者として名高い恵心僧都源信(えしんそうずげんしん)によって再興され、恵心院と称するようになりました。源信は、宇治川に入水した源氏物語宇治十帖のヒロイン浮舟を助け、新たな道を歩ませることとなった横川の僧都のモデルともいわれています。

■0774(21)3942

⑪県(あがた)神社(F-4)

県(あがた)とは、大和政権が西日本の要地に設けた地域組織で、特に畿内にあった県は、政治と祭祀に重要な位置を占めていたといわれています。祭神は木花開耶姫(このはなさくやひめ)で、平等院建立時には、その鎮守となったとも伝えられています。毎年6月5日から6日の未明にかけて

行われる県まつりは「暗夜の奇祭」といわれ、宇治を代表する祭として多くの人出で賑わいます。

■0774(21)3014



⑫地蔵院(G-5)

弘治年間(1555～58)に創建されたと伝えられる寺院で白川の地にあります。廃絶した白川金色院の遺宝が多数伝えられていることでも知られ、白鳳時代の銅造阿彌陀如来及脇侍像、板彫両界曼荼羅、建武2年(1335)年の年号と金色院の名が刻まれた梵鐘、大般若経563巻、紺紙金泥法華経などを所蔵。ただし、現在これらの所蔵品は全て京都国立博物館、及び宇治市歴史資料館において収蔵されています。

■0774(21)2270

⑬白山(はくさん)神社(H-6)と金色院(H-5)

白山神社は、8世紀後半に痲瘡が流行した時に、その治癒を願って創建されたと伝えられていますが、やがて四條宮寛子(しじょうのみやかんし)が建立したといわれる金色院の鎮守社となりました。祭神は伊邪那美命(いざなみのみこと)で、木造坐像を祀っています。10月18日の例祭の前夜に行われる「百味の御食(ひやくみのおんじき)」は独特の行事です。金色院は、七間四面の本堂のほか、多くの堂塔や坊舎を擁していたといわれていますが、現在では白山神社と総門、寛子の供養塔といわれる九重石塔が残るのみです。



⑭炭山陶器の里(A-9)

緑豊かな山々、志津川の清流。そんな自然に恵まれた炭山の里に京都東山から陶工達が移り住みました。現在では約50軒の窯元が集い、上品で雅やかな京焼の伝統を受け継ぎ、創作活動に励んでいます。工房では、見学や土ひねりの体験ができます。

協同組合炭山陶芸 ■0774(32)5904

協同組合炭山工芸村 ■0774(31)5824

京焼炭山協同組合 ■0774(32)2001

⑮宇治市観光センター(歴史街道センター)(F-5)

平等院東側の宇治川沿いにあり、観光案内のほか、市営茶室「対鳳庵」のチケット販売、おいしい宇治茶の無料サービス、観光に関する資料や名産品の展示などを行っています。気軽にご利用ください。

■開館時間 9時～17時

年末年始を除き無休

■0774(23)3334



⑯橋姫神社(E-4)

橋姫は橋の守り神です。瀬織津比咩(せおりつひめ)を祭神とする当社は、はじめ宇治橋に祀られていたともいわれていますが、その後移され、1867年の洪水で流失するまでは、宇治橋の西詰にありました。現在、境内には水の神である住吉神社が並んで祀られています。交通の要衝として発展してきた宇治にとって、宇治橋はとりわけ大きい意味を持っており、橋姫神社を巡って数々の伝承を生み出しています。また、源氏物語「宇治十帖」ゆかりの古跡になっています。

■0774(21)2017

⑰宝蔵院(A-5)

黄檗山萬福寺の塔頭で鉄眼道光が長い歳月をかけて完成した一切経の版木約6万枚があり、現在もお経が印刷されています。

■0774(31)8026

■拝観時間 9:00～16:00(不定休)

■拝観料 大人300円

小・中・高生200円

■駐車場 付近に民営駐車場有り



⑱橋寺<放生院>(E-5)

聖徳太子の命で、604年に秦河勝(はたのかわかつ)が創建したと伝えられ、宇治橋と深く関わってきたことから、「橋寺」の名で親しまれています。また、1286年に宇治橋を再興した西大寺の僧叡尊が当寺で大放生会を営んだことから放生院と名付けられました。境内には「宇治橋断碑」と呼ばれる石碑があります。

■0774(21)2662

■拝観時間

4月1日～10月31日 9:00～17:00

11月1日～3月31日 9:00～16:00

■拝観料 本堂 大人300円・小人無料

断碑のみ 大人200円・小人無料

■駐車場 なし



⑲あじろぎの道(E-5)

平等院東側の宇治川に沿った石畳の散策道。昔このあたりの川瀬に氷魚(ひうお・鮎の稚魚)を捕る網代を組んだ木(あじろぎ)があったことから、このルートを「あじろぎの道」と呼ぶようになりました。

⑳十三重石塔(F-5)

塔の島にある高さ約15mのわが国最大の石塔で、1286年に西大寺の僧叡尊により建立されました。叡尊は、朝廷の命により宇治橋の修復を行いました。殺生禁断の思想の持ち主で、網代や漁具を埋め、その上にこの石塔を建立し、魚霊の供養と宇治橋の安全を祈りました。



㉑あかげろうの道(D-6)

源氏物語ミュージアムから三室戸寺参道に至る散策道。道沿いに源氏物語宇治十帖の蜻蛉古跡があることから、このルートを「あかげろうの道」と呼ぶようになりました。



㉒宇治川先陣の碑(E-5)

宇治川を舞台とした合戦のなかでも源(木曾)義仲と源義経の戦いは有名です。激流を挟んだ両軍の決戦は、義経軍の梶原景季(かじわらかげすえ)と佐々木高綱の「先陣争い」で幕を切って落としました。結果、策にたけた高綱が先陣をとり、そのあと義経軍が大挙して川を渡って義仲軍を打ち破りました。この碑は、その故事にちなんで1931年に建立されたものです。



② 宇治橋 (E-4・5)

大化2年(646)に奈良元興寺の僧道登によって架けられたと伝えられ、その由来が橋寺の「宇治橋断碑」に記されています。現在の橋は1996年3月に完成したのですが、ヒノキ製の高欄に青銅製の擬宝珠を冠し、宇治橋が持つ歴史的なイメージと、周辺の景観にも調和したデザインとなっています。上流側に張り出した「三の間」は、守護神「橋姫」を祀った名残りとか、豊臣秀吉が茶の湯に使う水を汲ませたところともいわれ、上流の眺めは絶景です。

④ 与謝野晶子歌碑 (E-5)

与謝野晶子は1924年に宇治を訪れています。源氏物語の魅力に引かれていた晶子は紫式部を師と仰ぎ、源氏物語を詠歌で再構成した「源氏物語礼讃」によって歌人としての天分を発揮しました。この歌碑は、源氏物語「宇治十帖」の主な舞台になったこの地に、晶子没後50年を記念して建立されました。



④ 下居(おりい)神社 (G-4)

創祀時期は明らかではありませんが、この地は斎明天皇が行幸の途中に行宮を営んだ跡地といわれています。祭神は、伊邪那美命(いざなみのみ)

こと)、速玉男命(はやたまのおのみこと)、黄泉事解男命(よもつことわけのおのみこと)で、男女一体、女神二体の木造神像が安置されています。



⑥ 朝日焼 (E-5)

朝日焼は、宇治川の対岸に平等院を望む朝日山の麓で、15代400有余年にわたり作陶を続けてきました。宇治茶とともに茶陶として発展し、遠州七窯の一つにも数えられ、鹿背のような絵柄の出た「鹿背(かせ)」やほのぼのとした朝日の情景を想像させる「播師(はんし)」など、土の窯変から生まれる色模様が特徴です。

■0774(23)2511

⑦ 宇治茶道場「匠の館」(E-5)

宇治川のほとり、お客様自身に本場の宇治茶を淹れて、飲んで、食べて頂く体験型施設です。日本茶インストラクターがお茶の淹れ方を丁寧に説明します。

■0774(23)0888

■開館時間 11:00~17:00

(ラストオーダー16:30 水曜日休館)

■メニュー 玉露、匠の一滴、抹茶 (各700円・菓子付)



⑧ 上林(かんばやし)記念館 (E-4)

江戸時代、朝廷や幕府の御用茶師をつとめた、上林春松家の長屋門を資料館にしたものです。現在の長屋

門は1698年の宇治大火の後に再建されました。

館内には、製茶道具、秀吉や古田織部・小堀遠州が上林家に宛てた書状、フィリピンから渡来した「呂宗壺」など、宇治茶の歴史を物語る貴重な資料が数多く展示されています。

■0774(22)2513

■開館時間 10:00~16:00 金曜日休館

■入館料 大人200円(150円)

小人無料

※()内は20人以上の団体料金

■駐車場 なし



⑨ 宇治茶 (H-4)

宇治茶は、鎌倉時代の初めごろに栴尾高山寺の明恵上人により宇治に伝えられたのが始まりとされています。室町時代の三代将軍足利義満が宇治に七つの茶園をつくり、その後も豊臣秀吉や徳川幕府によって手厚く庇護され、高級茶の代名詞となりました。將軍家に御用のお茶を献上する「お茶壺道中」は、江戸時代から明治維新まで続けられました。宇治で生産されている茶は、てん茶と玉露が中心で、一部煎茶もあります。



⑩ 万葉歌碑

宇治川の清流と緑に包まれた宇治の自然は、いにしえより文人の心を動かし、多くの優れた文学を生み出しました。万葉集の中にも宇治を詠んだ歌が多数ありますが、その代表的な歌6首の歌碑が宇治川の周辺を中心に設置されています。万葉の世界に思いを馳せながらの文学散歩はいかがでしょう。写真は宇治公園橋島にある柿本人麻呂の歌の歌碑ですが、そのほか、下居神社、朝霧橋東詰、大吉山展望台、大吉山登り口、宇治市観光センター前にあります。



⑪ 許波多(こはた)神社

同名の神社が木幡と五ヶ庄にありますが、写真は五ヶ庄にある許波多神社です。三間社流造の本殿は室町時代の建築で、葺股に柳の彫刻がほどこされています。



⑫ 三休庵(さんきゅうあん) 宇治茶資料室 (E-4)

江戸時代初期よりの茶師として、幕府や大名等の茶の御用をつとめた上林三入家に残された大名等からの豊富な書状や、宇治石の石臼などが展示されています。

■0774(21)2636



⑬ 宇治陵

東宇治の丘陵部は、平安貴族とのゆかりが深く、栄華を極めた藤原氏一門の陵墓が点在しています。総称して宇治陵と呼ばれており、中でもJR木幡駅の南側にある一号陵は有名です。



⑭ 駒蹄影園碑(こまのあしかげえんび) (A-5)

黄檗山萬福寺の総門前にあります。鎌倉時代、宇治の里人が茶種の蒔き方がわからず困っているところへ、通りかかった栴尾高山寺の明恵上人が畑に馬を乗り入れ、蹄の跡に蒔くように教えたといわれています。この碑は上人の功績を顕彰するため1926年に建立されました。栴尾の尾上の茶の木分け植えてあとぞ生(お)ふべし駒の蹄影 明恵

⑮ 山本宣治の墓 (F-4)

「山宣(やません)」の名で親しまれる政治家、山本宣治が、善法の共同墓地に葬られています。毎年3月5日の命日には、遺徳をしのんで多くの有志がここに集います。



⑯ 蔵林(ぞうりん)寺 (A-5)

蔵林寺は、大鳳寺村の産土神として信仰を集めています。境内の石燈籠には「雨乞願成就」と刻まれたものがあり、製茶が盛んだった時代に、雨乞いが行われたことがわかります。本殿は、元禄十年(1697)に建てられました。

⑰ 安養(あんよう)寺 (C-5)

宇治橋下流東岸の地から移転したと伝えられます。地藏菩薩立像は北向地藏と呼ばれ信仰を集めました。阿弥陀如来坐像とともに平安時代の作品です。



⑱ 蔵林(ぞうりん)寺 (A-5)

蔵林寺は恵心僧都とのゆかりを説く浄土宗のお寺です。平安時代後期の仏像四体が安置され、本尊の阿弥陀如来像は全体に細くしなやかな姿で、お顔のつくりもおだやかです。

※拝観時間及び拝観料金は、平成22年6月現在のものです。

●アクトパル宇治
(宇治市総合野外活動センター)



東部山間地の笠取地区にある約9ヘクタールの野外活動センター。200人収容の宿泊施設、テントサイトを有するキャンプ施設、府下最大級の屈折望遠鏡を有する天

体観測室、フィールドアスレチック施設などがあり、澄んだ空気の中で自然観察やふるさと体験、農業体験などの活動もできます。

■075 (575) 3501

●太陽が丘
(府立山城総合運動公園)(H-4)

甲子園球場の約25倍の面積を持つ府立の総合運動公園。敷地の約半分は運動施設ゾーンで、陸上競技場、球技場、テニスコート、プール、体育館などがあり、1年を通じて様々なスポーツが楽しめます。また「冒険の森」「あそびの森」「ふるさとの森」「ふれあいの森」の4つの森があり、バードウォッチングや森林浴が気軽に楽しめます。京都府公園公社 ■0774-24-1313

●天ヶ瀬森林公園(G-8・9)

天ヶ瀬ダムの東に広がる約90ヘクタールの森林公園。園内には遊歩道が整備され、バードウォッチングや森林浴が気軽に楽しめます。また、展望台からは、鳳凰湖や宇治の町並みなどの素晴らしい眺めが広がります。



●宇治市植物公園

太陽が丘の西隣にある約10ヘクタールの植物公園。園内には、ガジュマル、ヤシ、ブーゲンビリアなど530種類、約7,000株の熱帯、亜熱帯植物が四季を通して鑑賞できる緑の休憩所(温室)をはじめ、花と水のタペストリー、花の広場、ハーブ園などがあります。

■0774 (39) 9387

■開園時間 1/5~12/27 9:00~17:00(入園は16:00まで)
月曜日(祝日の場合は翌日)休園

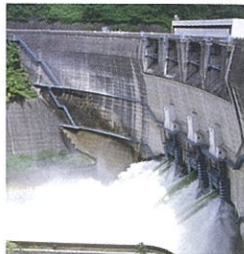
■入園料 大人500円(400円)
小・中学生250円(200円)

※()内は30人以上の団体料金

■駐車場 大型車(11人乗以上)1,500円
普通車400円

●天ヶ瀬ダム(G-8)

洪水調節、水道用水の供給、発電を目的として1964年に完成。高さ73m、長さ254mの堂々とした偉容を誇るドーム型アーチ式のダムで、その形が翼を広げた鳥の姿を思わせることから、ダム湖は「鳳凰湖」と呼ばれています。



●天ヶ瀬吊橋(G-7)

天ヶ瀬ダムの下流にあり、周辺の峡谷は豊かな自然に恵まれています。また、兩岸の道は東海自然歩道で、気軽なハイキングコースになっています。



●大吉山(仏徳山)(E-6)

「さわらびの道」を宇治上神社から少し東へ行くと、登り口があり、約20分で展望台に着きます。登山道は東海自然歩道になっており、サクラ、ヤマブキ、モミジ、サザンカなどの木々が四季折々の風情を見せてくれます。

●宇治公園中の島(E・F-5)

宇治川に浮かぶ塔の島と橋島を総称して「中の島」と呼んでいます。島内にはサクラ、マツ、モミジなどが植えられ、観光客や市民の憩いの場になっています。

●もみじ谷(G-6)

白山神社の境内から宇治川に抜ける溪谷を、通称「もみじ谷」と呼んでいます。春は新緑、秋は紅葉が見事で、東海自然歩道にもなっています。



●宇治川花火大会

宇治橋周辺で毎年8月10日に開催され、宇治の夏の風物詩として親しまれています。約7000発の打ち上げ花火が、千年の歴史と文化を育んだ宇治川の清流のほとりで、華麗な音と光の一大絵巻を繰り広げます。



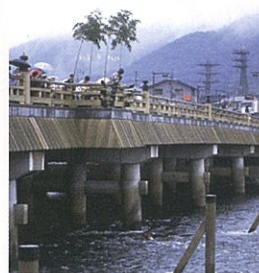
●鶺鴒

網代と並び宇治川の鶺鴒は、古くから親しまれ、「蜻蛉日記」などにも登場しています。川面に篝火が映え、鶺鴒と鶺鴒が一体となって繰り広げる演技はあざやかで、まるで絵巻をみるよう。

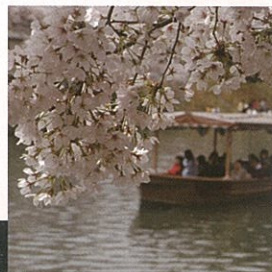
6月下旬~9月下旬営業

●茶まつり

栄西禅師、明恵上人、千利休の3人の茶祖の遺徳をしのび、毎年10月初旬に宇治橋周辺で行われる祭りです。宇治橋三の間からの名水汲み上げの儀から始まり聖興寺で茶壺口切りの儀などが行われます。



●宇治川さくらまつり
毎年4月第1土・日曜日、宇治川中の島一帯で開催されます。会場では野点席や特産品の販売などがあり、たくさんの花見客で賑わいます。



●県まつり

毎年6月5日から6日の未明にかけて行われる県神社の祭り。深夜に沿道の灯火を全て消して暗闇の中を梵天渡御が行われることから、別名「暗夜の奇祭」と呼ばれています。

●宇治十帖スタンプラリー

毎年、秋に開催されます。宇治川周辺の源氏物語「宇治十帖」の古跡や、世界遺産に登録された宇治上神社・平等院など、豊かな自然の中の文化財や古跡を巡るスタンプラリーは、あなたに素敵な秋の一日をプレゼントしてくれます。



●宇治田楽まつり

田楽は、ピンザサラなど特殊な楽器を奏しながらシンメトリックな隊形でダイナミックに躍る平安時代の代表的な芸能で、宇治の白川を拠点に本座田楽というプロの集団が宇治離宮祭をはじめ各地で活躍していたと伝えられています。ふるさと宇治にふさわしい市民の祭りとして、毎年10月下旬に宇治川中の島一帯で盛大に開催されます。



※四季を通じての詳しいイベントスケジュールは、21ページをご覧ください。

宇治市周辺地域



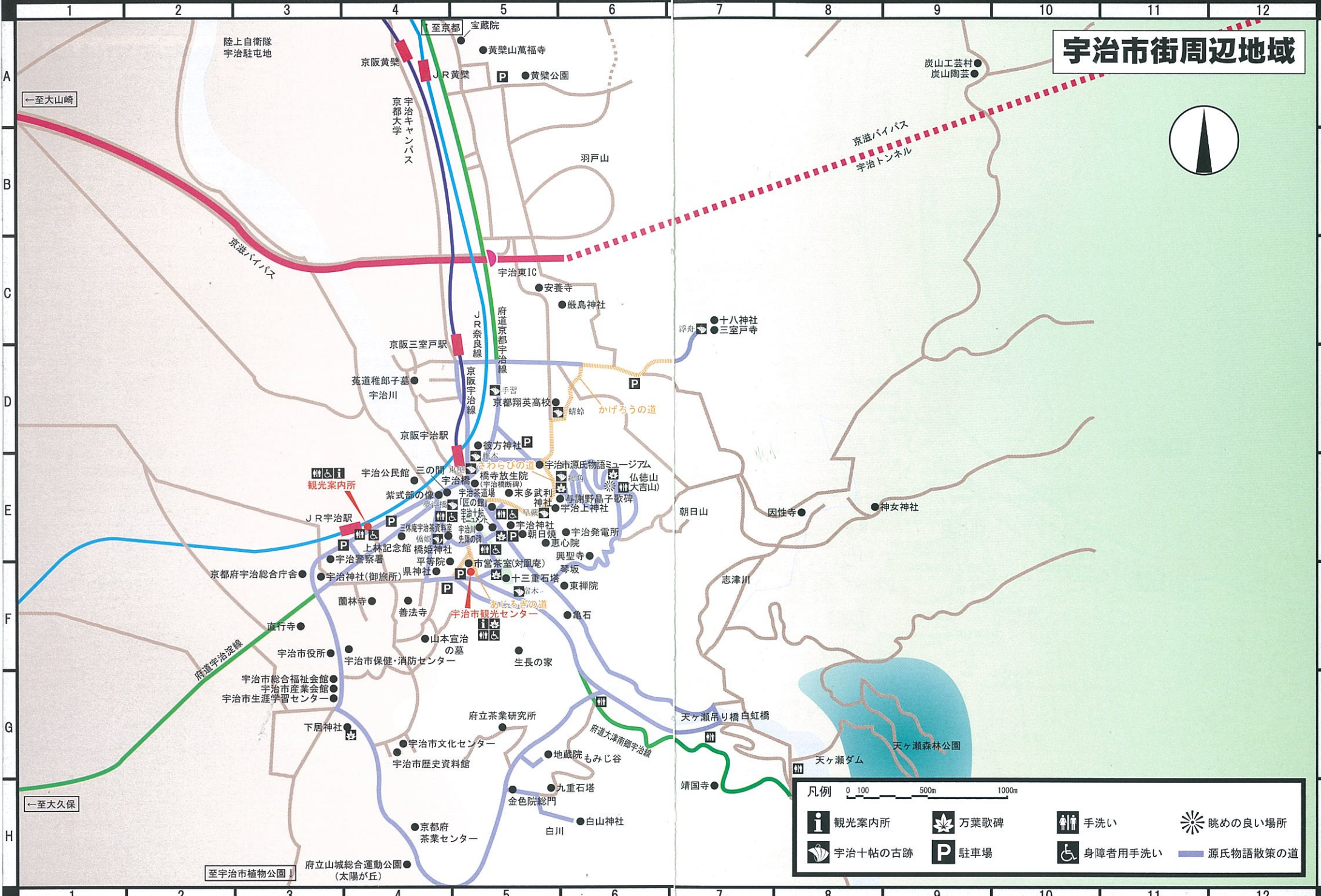
凡例

Index

- ◎ 市町村庁舎 City Office
- 観光案内所 Information Center
- 観光ポイント Sightseeing Point
- 高速道路・自動車専用道路 Express Highway
- 24— 国道 National Highway
- 15— 主要地方道 Principal Local Road
- 一般府県道 Prefectural Road or the like
- 東海自然歩道 Tokai Hiking Road
- 鉄道 Railroad



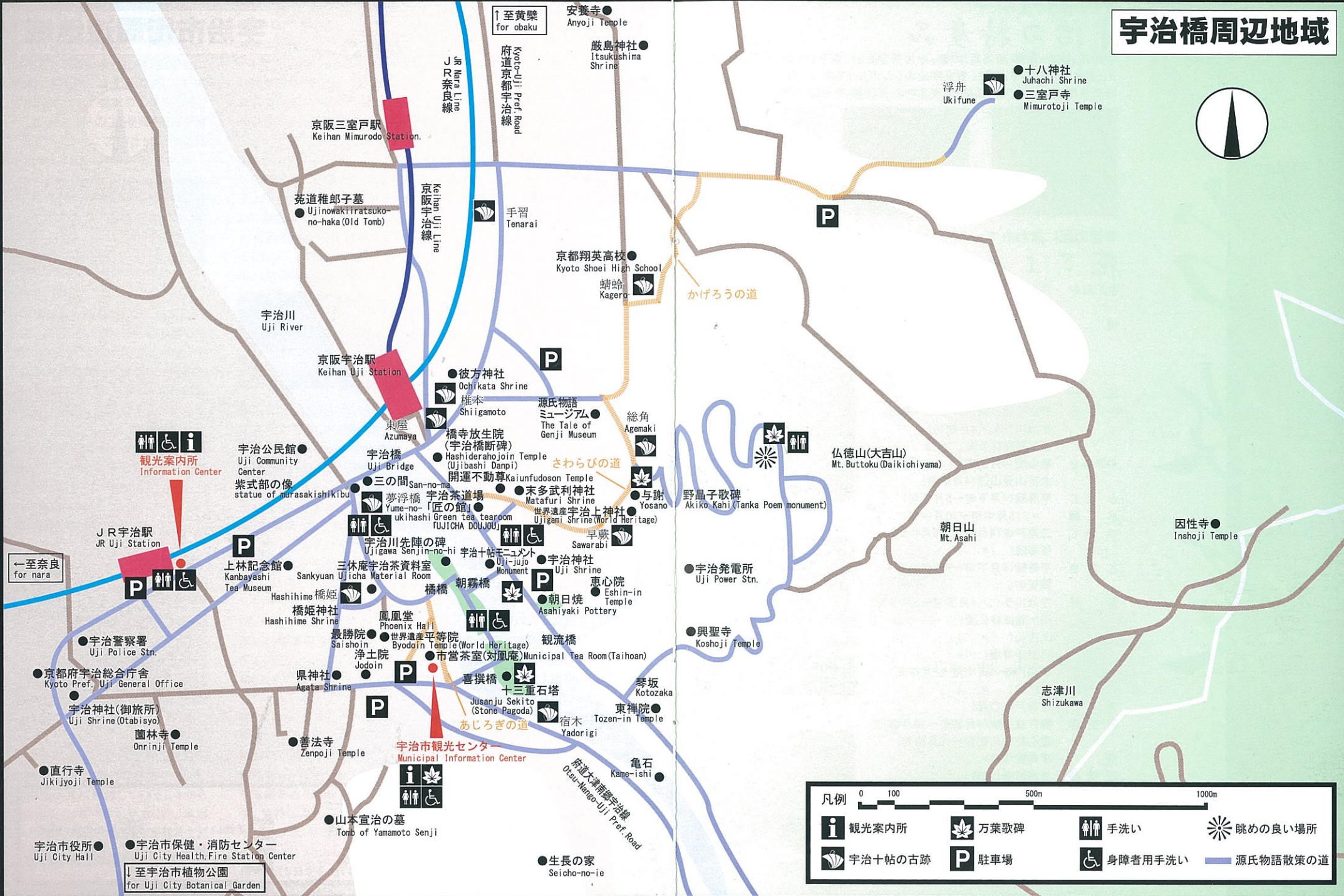
宇治市街周辺地域



凡例 0 100 500m 1000m

観光案内所	万葉歌碑	手洗い	眺めの良い場所
宇治十帖の古跡	駐車場	身障者用手洗い	源氏物語散策の道

宇治橋周辺地域



凡例

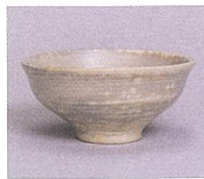
	観光案内所		万葉歌碑		手洗い		眺めの良い場所
	宇治十帖の古跡		駐車場		身障者用手洗い		源氏物語散策の道

宇治散策

歴史の深さが生み出す

宇治の特産品

宇治茶(抹茶・玉露・煎茶等)の他、宇治茶を使った菓子や食品(茶だんご・茶あめ・茶カステラ・茶そば等)、観光宇治のシンボルでもある平等院の鳳凰や萬福寺の魚棚等をかたどった文鎮、工芸品では、陶磁器(朝日焼・京焼)などがあります。



季節の風に誘われて 花ごよみ

さざんか	白川九重石塔(12月~1月) 大吉山(〃)
椿	興聖寺(2月~4月中旬) 平等院(3月下旬) 白川金色院跡(3月~4月) 恵心院(12月初旬~4月初旬)
ぼけ	平等院(3月)
さくら	府立宇治公園(4月初旬~中旬) 宇治川ライン(4月初旬) 天ヶ瀬森林公園(〃)
やまぶき	恵心院(4月初旬) 大吉山登山道(4月中旬)
ふじ	平等院(4月下旬~5月初旬)
水蓮	〃(5月中旬~10月中旬)
つつじ	三室戸寺(4月中旬~5月中旬) 平等院(〃)
さつき	平等院(5月下旬~6月初旬) 興聖寺(〃)
新緑	宇治川ライン(4月下旬~6月中旬) 天ヶ瀬森林公園(〃) 大吉山(〃) 興聖寺琴坂(〃)
あじさい	三室戸寺(6月中旬~7月中旬) 恵心院(〃)
蓮	三室戸寺(7月)
酔芙蓉	橋寺放生院(9月初旬~10月初旬) 恵心院(9月初旬~10月初旬)
萩	平等院(9月)
秋明菊	三室戸寺(10月)
紅葉	宇治川ライン(11月下旬~12月初旬) 天ヶ瀬森林公園(〃) 興聖寺琴坂(〃) 白川もみじ谷(〃) 三室戸寺(〃)
水仙	恵心院(11月下旬~2月中旬)



歴史と自然の絶妙のコンビネーション

観光モデルコース

■一般コース

●3~4時間コース

平等院→市営茶室「対鳳庵」→十三重石塔→宇治川先陣の碑→興聖寺→宇治十帖モニュメント→宇治神社→宇治上神社→与謝野晶子歌碑→総角→源氏物語ミュージアム

●半日コース(5~6時間)

上林記念館→三休庵宇治茶資料室→平等院→市営茶室「対鳳庵」→十三重石塔→宇治川先陣の碑→興聖寺→恵心院→朝日焼→宇治十帖モニュメント→宇治神社→宇治上神社→源氏物語ミュージアム→橋寺→宇治橋→三室戸寺

●1日コース(7~8時間)

上林記念館→三休庵宇治茶資料室→平等院→市営茶室「対鳳庵」→十三重石塔→宇治川先陣の碑→興聖寺→恵心院→朝日焼→宇治十帖モニュメント→宇治神社→宇治上神社→橋寺→宇治橋→源氏物語ミュージアム→三室戸寺→京阪三室戸駅→京阪黄檗駅→黄檗山萬福寺

●2日間コース

1日目(6~7時間)
平等院→市営茶室「対鳳庵」→十三重石塔→宇治川先陣の碑→興聖寺→恵心院→朝日焼→宇治十帖モ

ニュメント→宇治神社→宇治上神社→大吉山展望台→観光センター
2日目(6~7時間)

観光センター→白山神社→地蔵院→県神社→橋姫神社→上林記念館→宇治橋→橋寺→源氏物語ミュージアム→三室戸寺→京阪三室戸駅→京阪黄檗駅→黄檗山萬福寺

■源氏物語コース

●3~4時間コース

平等院→橋姫神社(橋姫)→夢浮橋→宇治橋→東屋→彼方神社(椎本)→手習→三室戸寺(浮舟)→蜻蛉→源氏物語ミュージアム→総角→与謝野晶子歌碑→宇治上神社→早蕨→宇治神社→宇治十帖モニュメント

●半日コース(5~6時間)

平等院→宿木→橋姫神社(橋姫)→夢浮橋→宇治橋→東屋→彼方神社(椎本)→手習→三室戸寺(浮舟)→蜻蛉→源氏物語ミュージアム→総角→与謝野晶子歌碑→宇治上神社→早蕨→宇治神社→宇治十帖モニュメント

●1日コース(7~8時間)

平等院→市営茶室「対鳳庵」→宿木→橋姫神社(橋姫)→夢浮橋→宇治橋→東屋→彼方神社(椎本)→手習→

三室戸寺(浮舟)→蜻蛉→源氏物語ミュージアム→総角→与謝野晶子歌碑→宇治上神社→早蕨→宇治神社→恵心院→興聖寺→宇治十帖モニュメント→京阪宇治駅→京阪黄檗駅→黄檗山萬福寺

■宇治茶コース

●半日コース(5~6時間)

宇治橋(三の間)→上林記念館→三休庵宇治茶資料室→平等院→市営茶室「対鳳庵」→朝日焼→興聖寺→宇治上神社(桐原水)→京阪宇治駅→京阪黄檗駅→駒蹄影園碑→黄檗山萬福寺

●1日コース(7~8時間)

宇治橋(三の間)→上林記念館→三休庵宇治茶資料室→平等院→市営茶室「対鳳庵」→朝日焼→興聖寺→宇治上神社(桐原水)→京阪宇治駅→京阪黄檗駅→駒蹄影園碑→黄檗山萬福寺…タクシ…炭山陶器の里

■森林浴コース

●半日コース(5~6時間)

天ヶ瀬森林公園→太陽が丘

●1日コース(7~8時間)

大吉山展望台→興聖寺琴坂→天ヶ瀬ダム→天ヶ瀬森林公園

キーワードはもてなしの心

観光ボランティアガイドのご案内

千年の歴史と文化に育まれたここ宇治を観光ボランティアガイドがご案内します。気軽にご利用ください。ガイドの種類は、3つに分かれており、それぞれご要望に応じて親切にご案内しますので、きっとご満足いただけることでしょう。原則として1週間前までに予約が必要で、ガイドの種類、利用日、時間、人数を(社)宇治市観光協会又は宇治観光ボランティアガイドクラブにご連絡ください(電話予約可)。利用料金等は次のとおりです。

■ガイドの種類と内容

- 一般観光 市内の主要な観光地をご案内します。
- 源氏物語 源氏物語宇治十帖や平安時代の古跡を中心にご案内します。
- 外国語 英語を中心に外国人の方をご案内します。
- 利用料金 ガイド1人につき、1,000円
- 利用時間 一回につき4時間まで午前9時から午後5時
- 問い合わせ先
社団法人宇治市観光協会 0774-23-3334 (開館時間 9:00~17:00)
宇治観光ボランティアガイドクラブ 0774-22-5083 (開館時間 10:00~16:00)

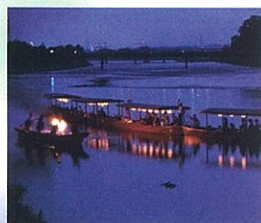
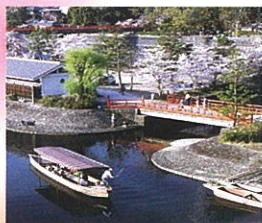
便利な携帯サイトをご利用ください
社団法人宇治市観光協会ホームページが
携帯電話からも見られます。
QRコード対応の機種をお持ちの方は下の
QRコードを読み込んでください。



宇治歳時記

ゆったりリズムがここに流れて 主な年中行事(スケジュール)

	行事名	場 所
1月5日	初県まつり	県神社
2月3日	節分祭	宇治神社他
2月下旬	宇治川マラソン大会	宇治川畔一帯
3月2日	関白忌	平等院
4月3日	開山(隠元禪師)忌	黄檗山萬福寺
4月第1土・日	宇治川さくらまつり	宇治公園中の島
"	炭山陶器まつり	"
5月8日	宇治神社神幸祭	宇治神社
5月第3土・日	全国煎茶道大会	黄檗山萬福寺
26日	頼政忌	平等院
6月1日	宇治上神社献茶祭	宇治上神社
6月5日~6日未明	県まつり	県神社
8日	大幣神事	県神社
8日	宇治神社還幸祭	旧宇治町一帯
下旬~9月下旬	宇治川の鶉飼	宇治公園中の島周辺
7月7日	七夕まつり	宇治神社
7月10日	金比羅まつり	円蔵院
8月9日	千日まいり	三室戸寺
8月10日	宇治川花火大会	宇治橋周辺
8月18日	全国有名盆踊り大会	宇治公園中の島
9月28日	開山(道元禪師)忌	興聖寺
10月1日	宇治神社献茶祭	宇治神社
10月初旬	月見のタベ	黄檗山萬福寺
第1日曜日	宇治茶まつり	宇治橋周辺
中旬	華僑普度勝会	黄檗山萬福寺
下旬	宇治田楽まつり	宇治公園中の島他
	京都・宇治灯り絵巻	宇治川周辺
10月下旬~11月初旬	宇治十帖スタンプラリー	宇治川周辺
11月5日	県神社献茶祭	県神社
12月31日	除夜の鐘	平等院他



文化の香り漂う夢の空間 国宝及び重要文化財一覽

区分	制作年代	種類	文化財の名称	数量	所有者
国宝	平安天喜元	建造物	平等院鳳凰堂	4棟	平等院
重文	鎌倉	同	平等院観音堂	1棟	同
国宝	平安天喜元	彫刻	木造阿弥陀如来坐像 定期作	1軀	同
国宝	同	同	木造天蓋	1具	同
国宝	同	同	木造雲中供養菩薩像	52軀	同
国宝	平安	絵画	鳳凰堂中堂壁扉画	16面	同
国宝	同	工芸品	梵鐘	1口	同
国宝	同	同	金銅鳳凰	1対	同
重文	同	彫刻	木造十一面観音立像	1軀	同
重文	桃山	建造物	浄土院養林庵書院	1棟	浄土院
国宝	平安	建造物	宇治上神社本殿	1棟	宇治上神社
国宝	鎌倉	同	宇治上神社拝殿	1棟	同
重文	同	同	宇治上神社撰社春日神社本殿	1棟	同
重文	平安	絵画	本殿扉絵	4面	同
重文	鎌倉	建造物	宇治神社本殿	1棟	宇治神社
重文	平安	彫刻	木造菟道稚郎子命坐像	1軀	同
重文	鎌倉	彫刻	木造地藏菩薩立像	1軀	放生院
重文	平安	同	木造不動明王立像	1軀	同
重文	大化2	書跡	宇治橋断碑	1基	同
重文	鎌倉弘安9	建造物	浮島十三重塔	1基	同
重文	鎌倉建治3	同	白山神社拝殿	1棟	白山神社
重文	平安	彫刻	木造伊那那美尊坐像	1軀	同
重文	同	同	木造十一面観音立像	1軀	同
重文	平安	彫刻	板彫両界曼荼羅	2面	地藏院
重文	平安	同	銅造阿閼如来立像	1軀	同
重文	奈良	同	銅造阿弥陀如来及脇侍像	2軀	同
重文	平安	彫刻	銅造釈迦如来坐像	1軀	同
重文	同	同	銅造大威徳明王像	1軀	同
重文	同	同	木造観世音菩薩坐像	1軀	同
重文	同	同	木造阿弥陀如来立像	1軀	同
重文	室町長享元	建造物	十八神社本殿	1棟	十八神社
重文	平安	彫刻	木造阿弥陀如来及両脇侍坐像	3軀	三室戸寺
重文	鎌倉	同	木造釈迦如来立像	1軀	同
重文	平安	同	木造毘沙門天立像	1軀	同
重文	江戸	建造物	萬福寺	16棟	萬福寺
重文	江戸	建造物	萬福寺松穂堂	7棟	同
重文	江戸寛文11	絵画	紙本着色隠元和尚像	1幅	同
重文	江戸	同	紙本淡彩 西湖図等	6点	同
重文	同	同	紙本淡彩 観音図	1帖	同
重文	同	書跡	黄檗山木額 40面 柱聯 榜牌 13面 同下書	44対 14幅	同
重文	江戸	歴史資料	鉄眼版一切経版木	48,275枚	宝蔵院
重文	室町永禄5	建造物	許波多神社本殿	1棟	許波多神社
重文	平安	工芸	鉄宝相華孔雀銅象嵌半舌鏡	1双	同
重文	平安	彫刻	木造薬師如来坐像	1軀	西導寺
重文	同	同	木造毘沙門天立像	1軀	同
重文	平安	彫刻	木造地藏菩薩坐像	1軀	能化院
重文	鎌倉承元4	工芸	梵鐘	1口	称名寺

史 跡・名 勝・重要文化的景観

種 別	名 勝	所 在 地	管 理 者	指 定 面 積 (㎡)
史跡・名勝	平等院庭園	宇治蓮華116	平等院	20,232.30
史 跡	隼上り瓦窯跡	菟道東隼上り5番147	宇治市	2,066.0
史 跡	宇治川太閤堤跡	菟道丸山、宇治乙方、槇島町大島	宇治市	22,584.08
重要文化的景観	宇治の文化的景観	宇治市	宇治市	228.5ha

旅

物語語人物紹介

魅力溢れる人物が語りかける歴

■菟道稚郎子

(うじのわきいらつこ)

【生没年不詳】

応神天皇の皇子の一人で、後に仁徳天皇となる兄と天皇の位につくことをめぐって譲り合い、ついには自ら命を絶つたと伝えられます。その名の菟道が宇治の地名の起源になったともいわれ人物です。宇治に當んだ桐原日新宮(きりはらひけたのみや)は宇治離宮、今日の宇治上神社・宇治神社によってその伝承が受け継がれました。

(宇治神社、宇治上神社)

■道登

(どうと)

【生没年不詳】

古代宇治川の流れは、その激しさと矢のような速さで、人びとの往来をこぼみつづけました。こうした状況をかかえて立ち上がったのが、山城国の裕福な家に生まれ、奈良元興寺の僧侶となった道登でした。大化二年(646)その架橋の記録は、さっそく石碑に刻まれ、後世に偉業として伝えられました。宇治橋東詰橋寺にのこります。

(宇治橋、橋寺)

■橋姫

(はしひめ)

宇治橋にまつわる伝承のひとつに橋姫があります。『古今和歌集』には、いとしい人待つ女性が歌われ、そのイメージが源氏物語宇治十帖へと引き継がれます。

『平家物語』には、嫉妬にくるって恨みをはらすために宇治川に浸り、鬼になった橋姫が登場します。江戸時代、橋姫社は宇治橋西詰上林味太郎(かんばやしみぼくてい)にありましたが、明治のはじめに現在地にうつりました。

(橋姫神社)

■藤原道長

(ふじわらのみちなが)

【966~1027】

平安貴族と摂関政治を代表する人物が、藤原道長です。幼い頃、木幡の墓地に荒れ果てている様子を目の当たりにした彼は、将来はきっと出世し、ここに寺を営み、先祖をてあつく供養することを誓ったといわれます。後年、陰陽師安倍晴明(おんみょうじあべのせいめい)らの助言を参考に、一門の墓所である木幡に浄妙寺(現木幡小学校付近)を築きます。

(平等院)

■藤原頼通

(ふじわらのよりみち)

【992~1074】

宇治の別荘を父道長からゆずられた藤原頼通は、これを寺にあらため平等院としました。天喜元年(1053)、この世に極楽浄土をそのままにあらわそうと、建物や庭園がつくられました。宇治殿と呼ばれ、平等院との関係が強く印象づけられた頼通の命日は三月二日、毎年閏白忌の法要が平等院で営まれます。

(平等院)

■源隆国

(みなもとのたかくに)

【1004~1077】

源隆国は、藤原道長と頼通に仕えた人です。晩年、平等院一切経藏南の山ぎわの南泉坊(なんせんぼう)で、夏を過ごすことがよくあり、そこで人を集めて、昔の物語をさせ、またそれを記録したといわれます。そうしてできあがったのが『宇治大納言物語』という説話集、その作品は今に伝わっていませんが、文学とゆかりの深い宇治にお似合いの逸話です。

(平等院)

■藤原寛子

(ふじわらのかんし)

【1036~1127】

後冷泉天皇のお后となった藤原頼通の娘寛子は、たいへん長命で、後半生は京都と宇治を往復する暮らしをつづけました。宇治七名水のひとつとして語り継がれた泉殿、いわゆる白川金院院、さらには横嶋三軒屋の蛭子鳴神社など、宇治川の流域から白川の山里まで、寛子ゆかりと伝える遺跡がこのされました。

(金院院跡)

■紫式部

(むらさきしきぶ)

【生没年不詳】

藤原道長の娘彰子に、女房つまり秘書官兼家庭教師といった立場で仕えました。彼女は宮仕えと作家を並行してこなし、わが国の古典を代表する『源氏物語』を著しました。王朝時代を刻みこんだ名作から、後世の人たちはイメージを多方面に広げます。「宇治十帖」の伝承も、源氏物語ミュージアムのいづは呼び水となったのです。

(宇治十帖古跡、与謝野晶子歌碑、源氏物語ミュージアム)

史絵巻にあなたも触れてみませんか。

■恵心僧都

(えしんそうず)

【942~1017】

恵心僧都源信は、阿彌陀如来への信仰と念仏を重視することを説いた『往生要集』(おうじょうようしゅう)をまとめ、末法の時代に広く受け入れられました。『源氏物語』一浮舟一に登場する横川僧都は、恵心僧都を題材にするといわれます。宇治橋上流東畔の恵心院はもちろん、五ヶ庄蔵林寺の源信山という号も、ともに恵心僧都にちなむ命名です。

(恵心院、蔵林寺)

■源頼政

(みなもとのよしまさ)

【1104~1180】

齢八十を目前に平氏打倒をかかげて挙兵し、宇治橋合戦の激闘のすえ、自刃して果てたことで有名な武将です。弓に巧みで、和歌を詠ませてもうまいと評判をとりました。命日は宇治川に螢が乱舞する時期と重なり、浮遊する光は頼政の魂になぞらえられました。平等院境内の扇の芝は、訪れる人に頼政伝説を紹介するモニュメントです。

(平等院)

■明恵

(みょうえ)

【1173~1232】

特産品の由来は、著名な僧侶とかかわって語り継がれることがあります。宇治茶の場合は、桐尾高山寺(とがのおこうざんじ)の明恵です。畑に馬を乗り入れ、その足跡に茶の種をまくように教えたというのです。室町時代、桐尾茶にかかわって宇治茶の評判が高まります。先進地の桐尾を代表する人物から教訓を得て、茶業地として宇治が発展したとする、心遣いあふれた逸話です。

(駒蹄影園碑)

■叡尊

(えいそん)

【1201~1290】

宇治川の改修と宇治橋の修造は、いつの時代も大きな工事になります。初架橋から600年、戒律の普及につとめた西大寺の僧叡尊のもとに有志が集まり、宇治橋新架橋の事業がはじまりました。宇治川の中洲にそびえたつ十三重石塔(重要文化財)は、大事業を完成させ人びとの偉業をたたえて弘安9年(1286)に建立されました。

(十三重石塔、橋寺)

■横島昭光

(まさしまあきみつ)

【生没年不詳】

室町時代末期、横島には足利将軍家とゆかりの深い横島氏が館を構えていました。最後の将軍となる足利義昭は、織田信長に追い詰められ、事実上の幕府滅亡をこの地でむかえます。今日まで横島城跡の伝承がのこります。逃げのびる義昭と行動をともしたとされるのが、横島昭光という人物です。彼は後に縁あって熊本細川氏に家臣として仕えます。

(横島城記念碑)

■上林政重~初代竹庵~

(かんばやしまさしげ)

【1550~1600】

江戸時代のはじめ、宇治茶業界は宇治の代官も務めた上林一族が指導的な役割を果たしました。上林政重はその一人で、茶師として徳川家康に仕えました。慶長5年、関が原の戦いにさきがけて起きた伏見城での戦闘で、政重は籠城して戦死してしまいます。彼の子孫は代々竹庵(ちくあん)を名乗り、宇治の行政と幕府御用茶師の代表的地位をしめました。

(上林記念館、平等院)

■永井尚政

(ながいなおまさ)

【1587~1668】

興聖寺は江戸時代の初め、慶安元年(1648)に淀城主の永井尚政が建立した曹洞宗のお寺です。彼は復古的な禅の考え方を支持し、開祖道元が伏見深草に開いた同名の道場を再興する、という名目で新たに寺を起しました。宇治川のほとりから、一直線にのびる参道は琴坂の通称で知られます。

(興聖寺)

■隠元隆奇

(いんげんりゅうき)

【1592~1673】

中国福建省生まれの隠元は、承応三年(1654)に長崎にやってきます。当時の一部の禅僧や大名たちは、隠元らの力をかりて禅宗の復興をめざしました。やがて朝廷の支持も得て、五ヶ庄大和町の地に新しく寺院を営むことを許され、寛文元年(1661)将軍徳川家綱の全面的後援で、黄檗山萬福寺が開創されます。

(黄檗山萬福寺)

■山本宣治

(やまもとせんじ)

【1889~1929】

大正・昭和期に生物学者、無産運動家として活動した人です。病弱だったので宇治の別荘(後に料亭となる)に過ごしました。昭和三年(1928)総選挙に初当選します。治安維持法の改悪に反対しますが、議会開会中に暗殺されてしまいます。平等院南の高台に墓があり、大山郁夫の墓碑銘が刻まれています。

(山本宣治の墓)



歴史街道とは、日本の歴史の舞台を訪ねながら日本文化の魅力を楽しみ体感できる新しい観光ルートのこと。伊勢・飛鳥・奈良・宇治・京都・大阪・神戸の各歴史都市を、時代の流れに沿ってたどる「メインルート」と、それぞれのテーマをもった、「テーマルート」があります。歴史街道ではこれらのルートを舞台に、歴史文化資源を活かしたソフト・ハード両面の整備を進め日本の素晴らしい文化を発信していくことをめざしています。宇治市は、メインルートの平安~室町時代ゾーンに位置付けられています。また、宇治市は、歴史街道モデル地域に指定され、国・京都府と協力しながら、宇治川改修、源氏物語散策の道や、歴史街道案内サインなど、「源氏物語のまち」にふさわしい整備を進めています。

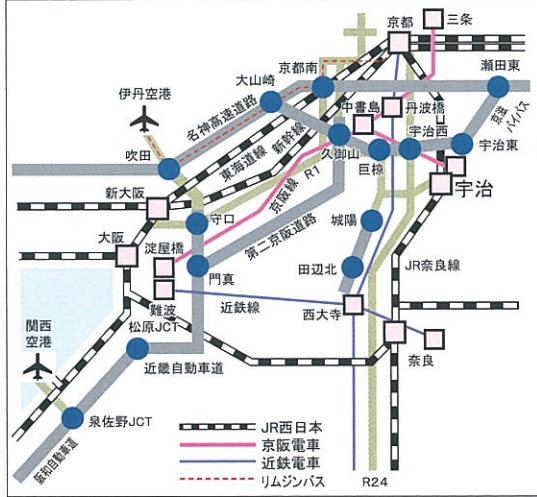
便利な携帯サイトをご利用ください
歴史街道計画や、歴史街道各地の情報が携帯電話からも見られます。
QRコード対応の機種をお持ちの方は下のQRコードを読み込んでください。



「歴史街道」

<http://qr.rekishikaido.gr.jp>

交通アクセス

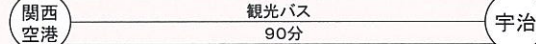
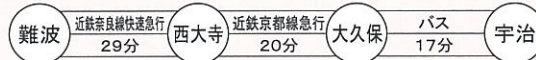


京都駅から最短15分！宇治までの交通のご案内

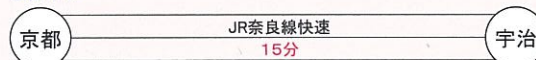
東京から



大阪から



京都から



■お問い合わせ

宇治市商工観光課

京都府宇治市宇治琵琶33 〒611-8501 TEL0774(22)3141(代表)

<http://hananoen.city.uji.kyoto.jp/>

宇治市観光センター(社団法人宇治市観光協会)

京都府宇治市宇治塔川2 〒611-0021 TEL0774(23)3334

<http://www.kyoto-uji-kankou.or.jp/>